

1 単元名 バスケットボール

2 運動の特性

バスケットボールは、2つのチームが入り交じり、パスやドリブルを使って攻め、ゴールにシュートして得点を競い合うことが楽しい運動である。

3 児童の実態

(1) 知識・技能の状況について

パスキャッチでは、多くの児童が静止状態であればキャッチをほぼ確実にすることができた。パスをするときには、5 m先の相手にパスが届かなかったり、コントロールが定まらなかつたりと安定して相手に送球できない児童が多かった。ドリブルでは、安定したドリブルでスピードを出せる児童は少数で、多くの児童がボールに集中し、前や周りを見ることができていない。ゴール下シュートでは、多くの児童が10本中0～3本成功、フリースローラインからのシュートでは10本中0～2本成功という結果になった。シュートの軌道を見ると直線的だったり、バックボードを利用せず直接ゴールをねらったりする児童が多く、シュートのポイントを理解していない様子であった。

試しのゲームでは、動きながらパスを出したり、パスを受けたりするところでミスが発生していた。また、ボールを持っていない場面で空いているスペースに走り込んでいる児童もいたが、全く動けず、ボールに触れることなく試合を終えてしまった児童が6名いた。

(2) 思考・判断・表現の状況について

「自分に合っためあてを立てることができますか。」という質問に対して、約9割の児童が「できる」「だいたいできる」と回答している。しかし、学習カードを見ると自分の課題を把握できず、実態に合っていないめあてを立てていたり、抽象的なめあてや振り返りを書いたりしている児童もいる。

今までのボール運動では、自分たちのチームに合うようにルールを工夫する学習を行ってきたが、勝つために作戦を選ぶ経験をしてきていない。そのため初めから作戦を考えることは難しいと考える。

多くの児童が「めあてを解決するために、仲間に聞く、先生に聞く」と答えている。また、8割の児童が「仲間と教え合ったり、協力したりすることができる」と回答している。一方で「仲のよい仲間とならできる」「自信がない」と回答していた児童が2割いることから、仲間との関わり合いに不安を感じている児童もいることがわかった。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の状況について

本学級の児童は、4年時にゴール型のボール運動としてポートボールとハンドボールを経験してきている。

体育学習は、9割の児童が「好き、どちらかというと好き」と回答している。しかし、バスケットボールの学習では、7割の児童が「好き、どちらかというと好き」と回答していることから、バスケットボールに対してネガティブになっている児童がいることがわかった。バスケットボールが「好き、どちらかといえば好き」と回答した児童は、シュートが決まったときに楽しさを感じている児童が多かった。一方で3割の児童が「けがをしたくない」「ボール運動が得意ではない」「うまい人だけでパスを回すから」などの否定的な回答をしている。これは、ボールに対する恐怖心や思い通りにプレイできなかった経験から意欲の低下につながっていることが考えられる。

4 研究の視点と学習の手立て

(1) 市教研体育部の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 研究の視点と手立て

視点1 課題を見付け解決できる学習過程の工夫と指導内容の明確化

<手立て>

○指導内容の明確化（小テーマの設定）

本学級の児童は、4年時にボール運動のゴール型の学習を経験してきているが、「シュート」「パス」「ドリブル」など実態調査からバスケットボールの技能が低い児童が多いことがわかった。また、ボールを持っていない場面でどう動けばよいかわからない児童も一定数いる。そこで学習の前半は、個の動きに注目させ、後半にはチームの動きに目が向くように指導していく。学習の前半は、個のドリブル、パス、シュート、ボールを持っていないときの動きのコツを共有し、オフェンスに関するバスケットボールに必要な技能を高めていく。学習の後半は、高めた技能を生かして、チームの動きに目が向くように指導していく。

指導内容を明確化し、毎時間指導と評価を一体化できるように下記の小テーマを設定する。

	小テーマ	目指す児童の姿
1	ルールや基本的な動きを知る。 (個の動きを高める)	・前にいるオフェンスマンに早くパスをしている。 ・攻守の切り替えをすばやくしている。
2	シュートのポイントを考える。 (個の動きを高める)	・ゴール下 45° はバックボードを使っている。 ・遠くのシュートはふんわりした軌道で打っている。
3	パス、キャッチのポイントを考える。 (個の動きを高める)	・ボールが欲しいときに声を出している。 ・胸から胸へパスをしている。 ・バウンドパスをして相手に取られにくいパスを出している。
4	ボールを持っていないときの動きを考える。 (個の動きを高める)	・パスを出したら前に走っている。 ・ゴール下 45° を意識して走り込んでいる。 ・ボールを縦につなごうとしている。
5・6	自分たちの特徴に合った作戦を考える。 (チームとしての動きを高める)	・学習カードを見返して、友達のよい動きをチームの特徴として捉え、チームの動きに目が向くようにする。 例 シュートが得意な A さんにゴール前でパスしよう。
7	出てきた課題を解決するための作戦を考える。 (チームとしての動きを高める)	○作戦がうまくたてられているチーム ・他の作戦を試す。 ○勝てないチーム ・どのような攻め方をしたら得点できるか、資料から考える。 ○1人に頼りがちのチーム - 全体でバランスよく攻めたり、守ったりする方法を考える。

視点2 運動の楽しさや喜びを膨らませる関わり合いの工夫

<手立て>

○用具の工夫

ボールについては、チーム内・相手チームで話し合い、バスケットボール・ライトバスケットボールのどちらを使うかを選べるようにし、ボールへの恐怖心を軽減できるようにする。

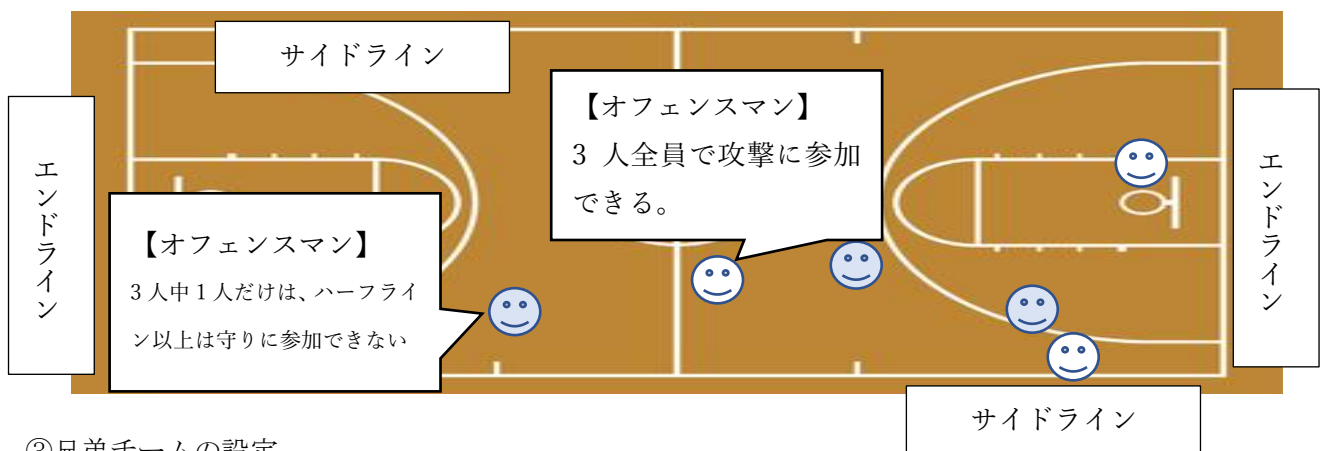
○ルール of 工夫

①少人数でのゲーム（3対3）

試しのゲームでは、多くの児童がバスケットボールの試合を楽しんでいたが、一方で動き方がわからない児童やパスをもらうことができない児童がいた。そこで、今回の学習では、3対3の少人数でゲームを行う。人数が少ない分、ボールに触れる機会が増える。またスペースも生まれるため、動いてパスがもらいやすくなると考える。さらにコート内の人数を少なくすることで、身体接触も少なくなり、ファールも減るため、安全面の配慮にもつながる。

②オフェンスマンの導入

シュートを決めることにバスケットボールの楽しさを感じているという児童の実態から、シュートの機会が増えるような機会を与えていきたい。そこで試合に出る3人のうち1人をオフェンスマンとして、3対2の数的優位な状況を意図的につくるようにする。繰り返しゲームを行う中で、数的優位の場面のよさを生かすことに目を向けさせ、自分がどこに動けば有利になるのかを考えながらプレイをすることができるようになりたい。フリーでのシュートやフリーの児童へのパスの場面を増やし、技能が高い児童もそうでない児童も得点を競い合う楽しさを感じながら学習を進めていけるようにしていきたい。



③兄弟チームの設定

本単元では、チームの人数を少なくして、一人一人のパスやシュートの機会を増やし、どの児童も得点を競い合う楽しさを感じられるように学習を進めていく。しかし、チームの人数を減らしたことで互いの動きを見合ったり、よい動きを伝え合ったりすることにチーム差が出てきてしまうことが考えられる。そこで本単元では、8チームづくり、2チームごとの兄弟チームとして設定する。自分たちでは気付けない課題やよさを兄弟チームから伝えてもらうことで、自分たちに合っためあてを立てやすくしていきたいと考えた。また、対戦相手の勝敗だけでなく、兄弟チームの勝敗も含めて順位を決定することで、自分事として兄弟チームのことを考えられるようにしたい。また、負け続けているチームが出た場合、教師の裁量で兄弟チーム内でメンバーの変更をすることなどで、学習意欲の低下を防ぎたい。

5 単元の目標

- (1) バスケットボールの行い方を知るとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 自己やチームの特徴に応じた作戦を選ぶとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) バスケットボールに積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

6 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①バスケットボールの行い方について言ったり書いたりしている。 ②フリーの味方に取りやすいパスを出したり、出されたパスを落とさずに取ったりすることができる。 ③得点しやすい場所に移動してパスを受け、シュートを打つことができる。	①チームに合った易しい作戦を選んでいる。 ②自分や仲間の行っていた動きの工夫を友達に伝えている。	①バスケットボールに積極的に取り組もうとしている。 ②ルールを守り、助け合って運動しようとしている。 ③ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ④仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑤場や用具の安全に気を配っている。

7 指導と評価の計画

	1	2	3	4 (本時)	5	6	7
学 習 の ねらい	学習の進め方を知り、見通しをもつ。	個の動きのコツを共有しながら得点を取る喜びを味わわせる。			チームで協力して得点を取ったり、防いだりする楽しさを味わわせる。		
0 ↓ 4 5	オリエンテーション ・道すじ ・ルールやマナー ・つながる運動 ・試しのゲーム (兄弟チームで行う) ・振り返り	学習活動① 簡単なルールでバスケットボールのゲームを楽しむ。(総当たり戦)			学習活動② 作戦を選んで、バスケットボールを楽しむ。(対抗戦)		
知・技	① 観察・カード		② 観察・カード	③ 観察・カード			
思・判・表				② 観察・カード	① 観察・カード	① 観察・カード	② 観察・カード
態度	⑤ 観察・カード	①② 観察・カード			③ 観察・カード	① 観察・カード	④ 観察・カード

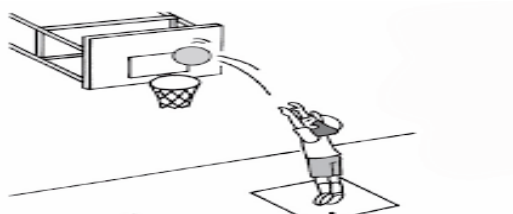
8 指導計画と教師の支援（本時 4 / 7）

	学習内容と活動	教師の指導・支援（○）評価（◇）
はじめ (第1時)	【オリエンテーション】 1 場づくりをする。 ・得点板、ビブス 2 学習のねらいや学習過程を知り、今後の学習の見通しをもつ。 1) 学習のねらい、道すじ 2) マナーや約束 ・礼儀を大切にする。 ・安全に気を付ける。 ・友達と協力し合い、アドバイスし合いながら学習する。 3) 兄弟チームの説明 3 準備運動をする。 4 ルールについて知る。	○チームごとに協力して場づくりをするように声掛けをする。 ○全体で確認して、次時からはチームごとに行うことを伝える。 ○学習の見通しが視覚的に分かりやすくするために拡大資料を提示して指導する。 ○対戦表や結果表を提示しながら、兄弟チームが味方であることを理解させる。 ○バスケットボールで使う部位を意識して行うように声を掛ける。 ○全体でルールを確認する。
	＜ルール＞ ・1 チーム 4 ～ 5 人。ゲームは 3 対 3。 ・試合時間は前後半 3 分。 ・オフェンスマンはハーフラインより相手陣地に入ることはいできない。(ディフェンスのみ) ・オフェンスマンは前後半で代わる。 ・ファールやコートからボールが出た際は、近くのサイドラインからスローイン。 ・セルフジャッジ。	
	5 兄弟チームで試しのゲームを行う。 6 学習カードの書き方を知る。 7 片付け・整理運動をする。	○ルールがわかっていない児童にはゲームを止めて確認する。 ○オフェンスマンをうまく使えていたり、攻守の切り替えが速い児童を取り上げ、称賛する。 ○めあての立て方、振り返りの仕方を確認する。 ○協力して片付けを行うように伝える。 ◇バスケットボールの行い方について言ったり書いたりしている。【知・技①】 ◇場や用具の安全に気を配っている。【態度⑤】

1 場づくりをして準備運動をする。

2 兄弟チームごとにつながる運動を行う。

- ・30秒シュート
- ・左右ゴール下45°にそれぞれ並び、繰り返しシュートする。



3 本時のめあてと学習の進め方を確認する。

【予想される児童のめあて】

- ・ゴール下シュートのときは、45°に動いてバックボードの四角の角をねらって打つ。
- ・バウンドパスをして相手にとられにくいパスを出す。
- ・ボールを持っていないときは、空いているスペースに走る。

○協力してすばやく準備ができるように声を掛ける。

○学習でよく使う部分を意識させながら行うように声を掛ける。

○シュートを打ったら、すぐに自分でボールを取りに行き、次の人がスムーズにシュートを打てるように声を掛ける。

○シュートが入ったら本数を数え、外れたらドンマイなど声を掛け合うようにする。

○自分のめあてを兄弟チームに伝え、自分のめあてが明確になっているか確認する。

○小テーマに合わせて、教師側の投げかける言葉を明確にする。

・シュート「どんなシュートが入るかな？考えながらゲームをしよう。」

・パス「どんなパスだと相手にカットされないかな？」「味方がとりやすいパスってどんなパスかな」

・ボールを持っていないときの動き「ボールを持っていないとき、どんな動きをしたら得点できるかな？」

簡単なルールでバスケットボールのゲームを楽しむ。(総当たり戦)

4 ゲームをする。(総当たり戦)

- ・毎時間2試合行う。

【兄弟チームA・Bの場合】

- ・前半Aチーム試合(3分)―1分休み―Bチーム試合(3分)
- ・作戦タイム(2分)
- ・後半Aチーム試合(3分)―1分休み―Bチーム試合(3分)

○ゲームの開始と終了のときは、全員で気持ちのよい挨拶をするように声を掛ける。

○ルールやマナーを守っている児童や得点につながるプレーをしている児童を称賛する。

○ミスには、「ドンマイ」「いいよ」と声掛けを行うとよいことを伝える。

○作戦タイムの際に、小テーマに合わせてよい動きをしている児童を取り上げ、全体に共有する。

・シュート…ゴール下45°でバックボードをねらっている。遠くのシュートはふんわりとした軌道で打っている。

	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
A									
B									
C									
D									
E									
F									
G									
H									

5 振り返りを行う。

- ・ゲームを通して気付いた動きを学習カードに書く。
- ・兄弟チームで振り返り、よかった動きを紹介し合う。
- ・学習カードに振り返りをする。
- ・次時のめあてを考える。

【話合いの視点】

- ・めあては達成できたか。
- ・誰のどんな動きがよかったか。
- ・たくさん得点を取るための工夫。

※小テーマに合わせて毎時間話合いの視点を示す。

6 技能面でよい動きをしていた児童を取り上げ、全体に共有する。

7 片付け・整理運動をする。

・パス…胸から胸へ捕りやすいパスをしている。バウンドパスをして取られにくいパスを出している。

・ボールを持っていないときの動き…パスを出したら前に走る。ゴール下 45° を意識して走る。ボールを縦につなぐ。三角形を意識してボールをつなぐ。

○どのように動いたらよいかわからない児童には、ゲームを止めて、一緒に動き方を確認する。

○待ちの兄弟チームには、友達のよい動きを見つけるように声を掛ける。

◇フリーの味方に取りやすいパスを出したり、出されたパスを落とさずに取ったりすることができる。

【知・技②】

◇得点しやすい場所に移動してパスを受け、シュートを打つことができる。

【知・技③】

◇バスケットボールに積極的に取り組もうとしている。

【態度①】

◇ルールを守り、助け合って運動しようとしている。

【態度②】

○工夫した動きや気付いたコツをチームカードに書くことが難しいチームには、一緒に振り返りをして頑張っていた友達の姿に気付けるように声を掛ける。

○話し合いがスムーズに行えるように適宜、助言をする。

○ゲームで工夫したことや気付いたコツを兄弟チームで伝え合う。

○兄弟チームで振り返りを行うことで、互いの頑張りを認め合えるようにする。

◇自分や仲間の行っていた動きの工夫を友達に伝えている。

【思・判・表②】

○パス、シュート、ボールを持っていないときの動きなどについて掲示物を活用して全体に共有し、できている児童を称賛する。

○試合を通して困ったことがないか確認する。

○怪我がないか確認しながら整理運動する。

○協力して片付けをするように声掛けする。

- 1 学習の場づくりをし、準備運動をする。
- 2 兄弟チームごとにチームの作戦を確認する。
 - ・Aさんはシュートがうまいからゴール下へ走ってBさんとCさんで三角形を使って攻める作戦だから、実際にやって動き方を確かめよう。
- 3 めあてを確認する。
【予想される児童のめあて】
 - ・シュートがうまいAさんにゴール前でパスをしよう。そのためにBさんとCさんで三角形をつくって攻めよう。
 - ・ドリブルのうまいDさんがボールを運んで、ディフェンスを引き付けたところでパスをもらいシュートしよう。
 - ・足が速いEさんには前に走ってもらってFさんとGさんでパスを縦につないでシュートしよう。

- 協力してすばやく準備ができるように声を掛ける。
- 学習でよく使う部分を意識させながら行うように声を掛ける。
- 声を掛け合いながら、チームの作戦に合った練習をしているチームを称賛する。
- 作戦が立てられないチームには、チームカードを見返して自分たちの強みを作戦にするよう声をかける。
- チームの作戦を兄弟チームに伝え、見合う視点を明確化する。
- 小テーマに合わせて、教師側の投げかける言葉を明確にする。
- ・自分たちの特徴に合った作戦…「自分たちの強みを生かすためにどのような役割にしたら、勝てるかな」
- ・課題を解決するための作戦…「次の試合に勝つためにうまくいかなかったことを修正する必要があるね。詳しく考えてみよう」
- ◇チームに合った易しい作戦を選んでいる。

【思・判・表①】

作戦を立てて、バスケットボールを楽しむ。(対抗戦)

- 4 ゲームをする。(対抗戦)
 - ・毎時間2試合行う。
 - ・ABチーム、CDチーム、EFチーム、GHチームの対抗戦。
 - ・前半試合(3分)－1分休み－後半試合(3分)
 - ・作戦タイム(5分)
 - ・前半試合(3分)－1分休み－後半試合(3分)

	A・B	C・D	E・F	G・H	合計
A・B					
C・D					
E・F					
G・H					

- 役割を意識して味方に合わせた動きをしようとしている児童を称賛する。
- 味方がフリーになった瞬間を見逃さず、パスを出している児童を称賛する。
- 作戦がうまくいっているかどうかはシュートまで行けたかで判断することを伝える。
- 作戦タイムでは、役割が明確になっているチームを取り上げ、自分たちの特徴に合った作戦を具体的に考えることができるようにする。
- 勝っているチームには、他の作戦を試すように声を掛ける。
- 勝てないチームには、どのような攻め方をしたら得点できるか、教師とともに考えるように声を掛ける。
- 1人に頼りがちのチームには、全体でバランスよく攻めたり、守ったりする方法を考えるように声を掛ける。

	5 学習の振り返りをする。 ・ 作戦がうまくいったか、学習カードに書く。 ・ 兄弟チームで振り返り、作戦のよかったところや課題を話し合う。 ・ 学習カードに振り返りをする。 ・ 次時のめあてを考える。 【話し合いの視点】 ・ 作戦は上手くいったか。(シュートまでいけたか) ・ 課題はあったか。 ・ 課題を踏まえて、次はどのような作戦にするか。 ※小テーマに合わせて毎時間話し合いの視点を示す。 6 整理運動をして、片付けをする。	○工夫した動きや気付いたコツを学習カードに書くことが難しい児童には、一緒に振り返りをして頑張っていた友達の姿から気付けるように声を掛ける。 ○話し合いがスムーズに行えるように適宜、助言をする。 ○兄弟チームで振り返りを行うことで、互いの頑張りを認め合えるようにする。 ○作戦が書けないチームには、チームカードを見返して、友達のよい動きや動きの工夫からチームの特徴に合った作戦を考えることができるように助言する。 ○いろいろなチームの作戦を取り上げ、共有することで作戦の幅を広げられるようにする。 ◇自分や仲間の行っていた動きの工夫を友達に伝えている。 【思・判・表②】 ◇バスケットボールに積極的に取り組もうとしている。 【態度①】 ◇ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 【態度③】 ◇仲間の考えや取組を認めようとしている。 【態度④】 ○試合を通して困ったことがないか確認する。 ○怪我がないか確認しながら整理運動する。 ○協力して片付けをするように声掛けする。
まとめ	【学習のまとめ】 ○バスケットボールの行い方を知るとともに、フリーの味方に取りやすいパスを出したり、出されたパスを落とさずに取ったりすることはできたか。 ○得点しやすい場所に動いてパスを受け、シュートを打つことができたか。 ○チームに合った作戦を選び、自分たちや仲間の行っていた動きの工夫を友達に伝えることができたか。 ○運動に進んで取り組み、ルールを守って助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えや取組を認めたり、場や用具の安全について気を付けたりすることができたか。	